

事業者排出量削減報告書

| | | | | | | | |
|--|---|---|---|---------------|---------------|---------------|--------------|
| (宛先) 京都府知事 | | 令和5年6月1日 | | | | | |
| 報告者の住所（法人にあっては、主たる事務所の所在地） 大阪府大阪市中央区高麗橋4丁目3番10号 | | 報告者の氏名（法人にあっては、名称及び代表者名） 扶桑化学工業株式会社 代表取締役社長 杉田 真一 (06) 6203-4771 | | | | | |
| 主たる業種 | その他無機化学工業製品製造業 | | | | | | |
| | 細分類番号 | 1 | 6 | 2 | 9 | | |
| 事業者の区分 | <input checked="" type="checkbox"/> 第12条第1項第1号 <input type="checkbox"/> 第12条第1項第2号又は第3号 <input type="checkbox"/> 第12条第1項第4号 | | | | | | |
| 計画期間 | 令和2年4月から令和5年3月まで | | | | | | |
| 基本方針 | 環境マネジメントシステム（KES）の運用によるエネルギー効率の改善。廃プラスチック類のRPF化及びリサイクル化への推進 | | | | | | |
| 計画を推進するための体制 | 環境マネジメントシステムを運用し、省エネ・省資源に努め、環境に関する教育を実施する。 | | | | | | |
| 温室効果ガスの排出の量 | 温室効果ガスの排出の量 | 基準年度 (29～1)年度 | 第1年度 (2)年度 | 第2年度 (3)年度 | 第3年度 (4)年度 | 増減率 | |
| | 事業活動に伴う排出の量 | 43,020.9 トン | 51,008.3 トン | 55,367.4 トン | 62,669.2 トン | 31.0 パーセント | |
| | 評価の対象となる排出の量 | 42,130.3 トン | 51,008.3 トン | 55,367.4 トン | 62,669.2 トン | 33.8 パーセント | |
| | 実績に対する自己評価 | 生産量増に伴って、エネルギー使用量も増加しており温室効果ガス排出量が増えてしまった。 | | | | | |
| 原単位当たりの温室効果ガス排出量等 | 事業の用に供する建築物の用途 | 原単位の指標 | 基準年度 (1)年度 | 第1年度 (2)年度 | 第2年度 (3)年度 | 第3年度 (4)年度 | 増減率 |
| | 工場 | 事業活動に伴う排出の量 (生産量×1/2) ÷ 100 | 143.15 | 134.28 | 130.73 | 109.68 | -12.75 パーセント |
| | | 事業活動に伴う排出の量 () | | | | | パーセント |
| | | 実績に対する自己評価 | エネルギー使用量は増加したが、効率良い生産体制・生産ロスの削減に取り組んだ結果が更なる改善に繋がった。 | | | | |
| 重点的に実施する取組の実施状況 | | 基準年度 (1)年度 | 第1年度 (2)年度 | 第2年度 (3)年度 | 第3年度 (4)年度 | 備考 | |
| | | 86.0 パーセント | 95.0 パーセント | 104.0 パーセント | 104.0 パーセント | | |
| 具体的な取組及び措置の内容 | (2)年度 | 高効率冷凍機更新・省エネポンプ更新・生産不良低減 | | | | | |
| | (3)年度 | 高効率冷凍機更新・生産不良低減・照明のLED化の推進 | | | | | |
| | (4)年度 | 高効率冷凍機更新・生産不良低減・照明のLED化の推進 | | | | | |
| 通勤における自己の自動車等を使用することを控えさせるために実施した措置 | 措置の内容 | 無し。 | | | | | |
| | 上記の措置を実施した結果に対する自己評価 | 地域特性及び勤務体系により、車両による通勤に制限を掛ける事は非常に困難である。 | | | | | |
| 森林の保全及び整備、再生可能エネルギーの利用その他の地球温暖化対策により削減した量 | 区分 | 第1年度 (2)年度 | 第2年度 (3)年度 | 第3年度 (4)年度 | 備考 | | |
| | 森林の保全及び整備によるもの | | トン | トン | トン | | |
| | 地域産木材の利用によるもの | | トン | トン | トン | | |
| | 再生可能エネルギーを利用した電力又は熱の供給によるもの | | トン | トン | トン | | |
| | グリーン電力証書等の購入によるもの | | トン | トン | トン | | |
| | 温室効果ガス排出量の削減又は吸収の量の購入によるもの | | トン | トン | トン | | |
| 合計 | | 0.0 トン | 0.0 トン | 0.0 トン | | | |
| 地球温暖化対策に資する社会貢献活動 | 証明のLED化推進・太陽光発電の活用 | | | | | | |
| 特記事項 | 環境マネジメントシステムに基づいた環境改善活動を推進する。 | | | | | | |

注 1 該当する口には、レ印を記入してください。特定事業者以外で自主参加される事業者の方は、レ印の記入は不要です。
 2 「細分類番号」とは、統計法(平成19年法律第53号)第2条第9項に規定する統計基準である日本標準産業分類の細分類番号をいいます。
 3 「基準年度」とは、計画期間の前年度又は計画期間の前の3年度の事業活動に伴う排出の量又は原単位の数値の平均をいいます。
 4 「増減率」とは、基準年度と比較した計画期間の平均の増加又は減少の割合をいいます。
 5 「重点的に実施する取組の実施状況」とは、温室効果ガスの排出の量を削減するために重点的に実施した取組の実施率を地球温暖化対策指針で定める方法により算出して記入し、その算出の根拠となる資料を添付してください。